

コーヒー豆に係る調達ガイドライン

当社、および当社事業会社である株式会社 MC アグリアライアンス（以下併せて「当社グループ」）は、Olam 社等、グローバルに事業を展開するパートナー企業と連携の上、コーヒー事業を幅広く展開しております。

コーヒーは世界中で最も飲まれている飲料の一つであり、世界の人口増と各国の経済成長に伴い、その需要は拡大傾向にあります。

一方、その多くは赤道付近の熱帯地域に位置する開発途上国で生産されており、業界で「コーヒーの 2050 年問題」と指摘されている気候変動による生産適地の減少、農園拡大に伴う森林伐採、不適切な排水処理による環境汚染、貧困に起因する強制労働・児童労働の人権問題といった環境および社会の課題が存在しております。

こうした事業環境を踏まえ、当社グループはコーヒー豆の持続可能な調達における環境や社会課題への取り組み方針となる「コーヒー豆に係る調達ガイドライン」を制定しました。

■ 当社グループにおける基本方針

1. 法令順守：サプライチェーンに係る関係各国の法令を遵守すること。
2. 生態系保全への配慮：違法森林伐採の禁止、適切な水資源の活用、適切な農薬の散布による土壌保護等、生態系保全に配慮したコーヒー豆を調達すること。
3. 人権の尊重：貧困からくる強制労働・児童労働の実態把握と是正、適切な労働環境の確保、差別やハラスメント行為の禁止等、サプライチェーン上の労働者の人権に配慮したコーヒー豆を調達すること。
4. 地域社会への配慮：事業活動を行う地域社会において、先住民・地域住民の土地や住居等の権利を侵害せず、人権に対する責任を果たすこと。

■ 当社グループにおける具体的な取り組み

1. 当社グループのサプライチェーン上の人権・環境デューデリジェンス（持続可能なサプライチェーン調査）を定期的実施し、リスク評価を行い、対処・対応が必要な場合は是正の働きかけを行う。
2. 社外のステークホルダーからの相談を受け付けるための窓口（グリーバンスメカニズム）を活用し、適時適切に環境・社会性面の問題を特定し、防止・軽減に取り組む。
3. 当社グループ関連企業でもある Olam 社等のサプライヤーと連携し、営農支援、産地労働者への支援等の社会貢献活動を継続する。
4. 「コーヒー豆調達目標」を以下の通り定め、持続可能性に配慮したコーヒー豆の調達を推進する。

■ コーヒー豆調達目標

2030 年までに持続可能性に配慮したコーヒー豆¹の取扱い比率 100%を目指す。

以 上

制定：2025 年 5 月 1 日

¹ 持続可能性に配慮したコーヒー豆：自然環境の保護、労働者の人権に配慮している農家から調達したコーヒー豆。具体的には Olam 社独自のサステナビリティプログラムである AtSource に加え、レインフォレスト・アライアンス認証²、フェアトレード認証³、4 C 認証⁴等の第三者認証及びそれに準ずる認証豆、乃至は当社の「持続可能なサプライチェーン行動ガイドライン」に適合したサプライヤーから調達したコーヒー豆。

² レインフォレスト・アライアンス認証：国際的 NGO レインフォレスト・アライアンス協会の定める、森林保護等持続可能な農業を推進する為の認証。

³ フェアトレード認証：国際フェアトレードラベル機構による生産者生活を守ることを目的とした認証。

⁴ 4 C 認証：ドイツに本部をおく、コーヒーの持続可能性に特化した認証。